

CDC(米国厚生省疾病管理・予防センター)から米国議会への報告

—重大な未研究課題に取り組むための勧告—

外傷性脳損傷は一生続く問題になることがあり、それは当事者家族の生活のみならず、社会経済にも大きな影響を及ぼす。CDCは、米国における外傷性脳損傷：疫学とリハビリテーションという題の報告を発行した。この報告では、

- ▶ どれくらいの人々が外傷性脳損傷を負い、その生活にどのような影響を受けるか
- ▶ 外傷性脳損傷リハビリテーションの効果について何が明らかになっているか

を記している。

この要約では、報告書全文のうち、カギとなる勧告の一部を示す。

何が論点か？

外傷性脳損傷は、人がどのように感じ、考え、行動し、学習するかに影響しうる。これらの影響は、治療やリハビリテーションが終わったあとも残りうる。転倒転落と自動車事故は外傷性脳損傷の主な原因である。健康への影響とQOLの向上に必要なリハビリテーションサービスの中で利用可能なものを理解することは、損傷の負担とコストを軽減するために重要である。

何ができるか？

外傷性脳損傷リハビリテーションのゴールは、外傷性脳損傷とともに生きる人々のQOL全般の向上である。

リハビリテーション介入やサービスは、外傷性脳損傷とともに生きる人々が、自立して日課をこなし、友人や家族と関わり、地域社会に参加することができるように支援する。CDC報告の概要に示されるとおり、外傷性脳損傷の人のQOLを高めるためのガイダンスを改善するために、重大な未研究課題に取り組む必要がある。CDCの勧告は、外傷性脳損傷とともに生きる人々と家族の生活をよりよくするように、リハビリ研究とサービス提供の改善に焦点をおいている。

側注：

- 1年間に外傷性脳損傷によって、220万人が救急外来を受診し、28万人が入院し、5万人が死亡している。
- 2016年度大統領予算において、若年者が経験するスポーツおよびレクリエーションに関連する脳振盪（脳しんとう）の推計の向上のためにCDCに対して500万ドルが増額された。

CDC 勧告

CDC は、研究者、保健医療福祉従事者、行政担当者に向けて、以下のような勧告を明示した。

外傷性脳損傷の概数予測を改善する

- ▶ 何人の外傷性脳損傷者が外来診療所、応急手当室、その他病院以外の施設を利用しているかに関するデータを収集する。
- ▶ 各州における外傷性脳損傷の発生数を算出する。
- ▶ 外傷性脳損傷に起因する障害のある人の概数を見積もる。
- ▶ 若年者に起きるスポーツ・レクリエーション関連の脳振盪（脳しんとう）の予測を高める監視システムを開発し導入する。

リハビリテーション効果の評価法を拡充する

- ▶ 患者の経過追跡の向上とリハ効果の判断をするための保健医療情報技術活用を強化する。（例、電子カルテ、記録等）
- ▶ リハビリテーション療法の効果をよりよく判断できる包括的な評価法を開発する。
- ▶ 子ども、高齢者、人種/民族といった特定な集団において期待できる評価法を適宜導入して試行する。

外傷性脳損傷のリハビリテーション研究およびサービス提供を改善する

- ▶ リハビリテーション療法の最適な時期、強度、頻度を検証する研究を行う。
- ▶ 一生続くニーズを支える臨床や地域のサービスに、患者と家族をよりよくつなぐようなサービス提供モデルを開発する。
- ▶ 遠隔地や都市部でない地域に住む人のリハビリテーションサービスへのアクセスを向上するために、遠隔医療などの代替手段の活用を増やす。
- ▶ リハビリテーションの補助として期待できる支援技術の活用を拡充する。（例 GPS、呼び出しシステム、スマートフォン）

外傷性脳損傷は、全国数百万人の生活に影響する公衆衛生上大きな負担である。外傷性脳損傷の予防はその負担を軽減するためのカギとなる公衆衛生戦略であるが、公衆衛生、臨床現場、研究の場にいる人が、外傷性脳損傷がもたらす健康上の負の影響を軽減する効果のあるリハビリテーション戦略を計画し、評価することも喫緊である。

しかしながら、サービスを必要としている人にとって、費用、地理的条件、保険などの理由で利用が限定されることがある。重大な未研究課題の溝を埋めること、ケアへのアクセスを拡充すること、リハビリテーションサービスの効果を上げることが、外傷性脳損傷とともに生きる人々とその親しい人々の QOL 全般を改善する道へとつながるであろう。

さらに詳しい情報については、www.cdc.gov/TraumaticBrainInjury を参照されたい。